

南ぬ風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかじ

54

— 2021.4~6 —

春

首里城火災後、美術工芸品の修復について。



2019年12月6日、搬出した美術工芸品をマスコミ向けに紹介した際の様子

2019年10月31日午前2時33分頃、首里城正殿で火災が発生(那覇市消防局発表)。書院・鎖之間、奥書院、黄金御殿、寄満、二階御殿、北殿、南殿・番所にも延焼し、8施設が焼損した。沖縄県民はもちろん、国内外に衝撃が走り、翌日から再建支援の募金が始まるなど、「再び首里城の姿を」という声は世界に広がった。

また、首里城内で展示・收藏されていた文化財や美術工芸品がどうなったか心配する声も多く寄せられ、何が無事だったかという報道は関心事となった。

これまで沖縄美ら島財団(以下、財団)が収集してきた美術工芸品は、沖縄の歴史・文化の一部であり、だからこそ火災後、首里城基金にも多額の寄付が寄せられたのだろう。美術工芸品の修復について、沖縄美ら島財団総合研究センター琉球文化財研究室で話を聞いた。

※国内外に散逸した首里城関係の文化遺産を収集・復元・保存し、首里城公園等で展示・一般公開していくため、財団に設置された基金。

contents

調査研究 02
 おきなわ暮らしのカレンダー 05
 沖縄美ら海水族館で出会える生き物 06
 沖縄の希少植物 06
 普及啓発 07
 御城物語 08
 うちのーの手わざ 08
 運営管理 09
 スポットライトの向こう側 12
 財団いんふお 14
 編集後記 15
 おもろさうしの植物 裏表紙

作品タイトル「青漣」 沖縄美ら島財団理事長賞

「漆芸の重厚なイメージを変える、柔らかく動きのある作品を」と、選んだモチーフは“布”。粘土原型に麻布と糊漆を7枚貼り重ねた乾漆技法を使用し、薄さを出している。風にたなびく布の質感を追及し造形しており、加飾工程では螺鈿を線状に重ねている。この緻密さとうねりが、「漣」(さざ波)をも想起させる作品となっている。

造形芸術研究科 生活造形専攻 工芸専修
 島袋香子(与那原町出身)

沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第31回卒業・修了作品展」で受賞した3作品および推薦作品が表紙を飾る予定です。若い才能にご注目ください。

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは…
 南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思っています。



紅型染め衣裳の被害状況を確認中。目立った被害はないが、よく見れば火災の影響は残る



首里城公園内から収蔵品を搬出している様子

沖縄県内各施設の学芸員が
集結し、所在確認調査から開始

鎮火後、2日目の11月1日になっても、また南殿2階特別展示室から煙が出るという事態があったが、間もなく消防により消火。すぐに南殿2階特別展示室から展示品の搬出作業を始め、翌2日から3日にかけて、南殿特別収蔵庫、寄満特別収蔵庫などから収蔵品を搬出。搬出作業、所在確認、状態の調査について、文化庁、沖縄県教育庁、沖縄県博物館協会、沖縄県立博物館・美術館、那覇市教育委員会、浦添市美術館、沖縄県立芸術大学(現公立大学法人沖縄県立芸術大学)、琉球物流株式会社などの協力を得た。

「特に所在確認や状態の調査については沖縄県博物館協会の協力で、沖縄県内の学芸員たちがかけつけてくれて、本当に助かりました。財団所蔵の美術工芸品は合計1,510点あり、所在確認調査及び、専門家による状態確認調査は終了しています。一時保管には沖縄県立博物館・美術館と沖縄県立芸術大学のスペースをお借りしていますが、いつまでもというわけにはいかず、新たな収蔵庫の設置については以前から話が出ていましたが、火災に



高温状態に置かれ、包装していた紙がはりついてしまった漆器

よってその重要度が変わりました。首里城とは別の場所に財団が収蔵庫を持つ方向で検討中です」と現状を語るのは琉球文化財研究室の幸喜淳室長補佐だ。

美術工芸品の修復については、「首里城美術工芸品等管理委員会」が財団により設置され、2019年12月から2021年3月にかけて計4回実施された。委員には高良倉吉委員長(歴史)・安里進氏(漆芸史)・田名真之氏(歴史)・室瀬和美氏(漆芸家)・湊信幸氏(絵画)・與那嶺一子氏(染織)・森達也氏(陶磁器)・早川泰弘氏(保存科学)といった外部有識者を招き、被災状況調査の結果報告や保存・修復・復元にかかる課題の抽出、今後の取り組み方法などについて議論したうえで、2021年3月26日に中長期計画策定のための提言を受けた。



総合研究センター 琉球文化財研究室 幸喜淳室長補佐



首里城美術工芸品等管理委員会の様子

沖縄美ら海水族館 外出を制限された入院中の子どもや
特別支援学校の子どもに向けた「遠隔授業」実施！



ヌタウナギを使った深海生物の授業



黒潮の海大水槽の解説

遠隔授業のテーマは、子どもに人気の「ジンベエザメ」「深海生物」「イルカ」の3つです。「ジンベエザメ」の授業では、黒潮の海大水槽の様子を生中継しながらサメの歯の標本なども使ってジンベエザメの生態を楽しく紹介しています。「深海生物」の授業では、オオグソクムシやヌタウナギの生体を用いて、子どもが「あっ！」と驚くような深海生物の生態を紹介しています。「イルカ」

沖縄美ら海水族館では、2020年4月よりICT（情報通信技術）を活用した遠隔授業を実施しています。本授業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出や面会などが制限されている入院中の子ども達や、修学旅行や社会見学といった学校活動が制限されている特別支援学校の児童生徒を対象としています。ビデオ通話アプリを使って水族館と病院・特別支援学校を繋ぎ、解説やクイズを通して生き物について学びながら飼育員との交流も楽しんでいただける内容となっております。



イルカがジャンプを披露

の授業では、子ども達の掛け声「せーの！」にあわせてイルカがジャンプを披露し、子ども達がトレーナーになったような疑似体験をすることができます。

2020年4月から2021年3月末までに全国の病院・特別支援学校を対象に41回授業を実施し、入院中の子ども達や特別支援学校の児童生徒合わせて、856名の皆さまに授業を楽しみながら学んで



子ども達からいただいたお礼状

いただきました。プログラムを体験した施設の関係者からは、「授業後に子どもの表情が明るくなった」、「授業を通して患者さん同士の交流が盛んになった」などの声をいただきました。今後も全国の病院、特別支援学校を対象に、遠隔授業を通して子ども達に楽しい時間を提供していきます。

(横山季代子)

沖縄美ら海水族館で
出会える生き物 Vol.14

和名: ヒメイトマキエイ 科名: イトマキエイ科
学名: *Mobula thurstoni*



「黒潮の海」大水槽で泳ぐ姿

ヒメイトマキエイは、世界の温帯から熱帯域に分布しています。体の背側は全体的に光沢のある青紫色をしており、頭部背面にある暗色の帯状模様が特徴です。日本で見られるイトマキエイ属の中でも、ナンヨウマンタやオニイトマキエイが体幅約4~6mまで成長するのに対し、ヒメイトマキエイは最大でも約2m程で最も小さい種です。



餌に向かって急加速する様子

沖縄美ら海水族館「黒潮の海」大水槽では2019年7月に世界で初めてヒメイトマキエイの展示に成功しました。本種は主にプランクトンや小型の甲殻類などを摂餌していますが、餌を食べる瞬間に急加速する特徴があり、他のイトマキエイ類とは異なる摂餌行動が飼育下で観察されています。今後も、本種の飼育を通して生態解明に取り組んでまいります。

沖縄美ら海水族館だけで見ることができるヒメイトマキエイの姿をぜひご覧ください。

(木野 将克)

沖縄の希少植物 Vol.31

和名: イエジマチャセンシダ
科名: チャセンシダ科
学名: *Asplenium oligophlebium* var. *iezimaense*

レッドデータカテゴリー:
絶滅危惧IA類(環境省)、絶滅危惧IA類(沖縄県)



イエジマチャセンシダ



羽片と孢子嚢

イエジマと名のついたこのシダ植物は、世界で沖縄本島北部に位置する伊江島にのみ分布する珍しい植物です。常緑の多年草で、大きくても25cm程度、ほとんどは10cmほどにしか成長しません。本種は日本固有種であるカミガモシダの変種とされています。カミガモシダとは、羽片の長さや形で区別されています。胞子で増殖する以外にも、葉軸の先端につける無性芽により無性生殖を行っています。

環境省の国内希少野生動植物種に指定され、採集や譲渡などは法律で禁じられていますが、そもそも生存する個体数が少ない上に自生地が限られており、環境の変化などにより、そのままでも絶滅してしまう可能性が危惧されています。沖縄美ら島財団総合研究センターでは、生息域外での栽培試験や胞子保存など、イエジマチャセンシダの保護増殖技術開発に取り組んでいます。

(天野 正晴)

沖縄のシンボルとして、 見せる再建と復興を



元気いっぱいの子ども旗頭「響」。目に涙を浮かべて見守る方も多く、観光のお客さまにも喜ばれた。右手奥には修繕された奉神門が見える。

2019年10月31日に発生した首里城火災の後、国、県の両方で首里城の再建と復興へのロードマップが作成され、2020年3月末に発表された。2026年までに首里城正殿を再建すること、そのプロセスを公開する方針も決定された。

火災後、首里城公園は閉鎖されていたが、国、県、沖縄美ら島財団(以下、財団)が連携して開園準備を進め、2019年12月12日から城郭内の一部をオープン。城郭内の瓦礫や燃え残りの木造部分も解体・撤去され、正殿の再建工事に向けて準備が進められている。

国・県が大きな方針として掲げる「見せる復興」も進行中だ。世界文化遺産である正殿の地下遺構を公開するため、正殿の位置に仮設の履屋を設置。風雨や紫外線から地下遺構を守りつつ、窓越しに見えることが可能となった。正殿の屋根にあった龍頭棟飾りなどは、正殿の大きさをイメージさせる展示物として、礎石と共に並んでいる。

2020年9月23、24日にはヒビが入ったまま正殿前に立っていた大龍柱を下之御庭に移動。仮設の作業建屋で破損防止の樹脂を注入し、養生中の様子を見せる展示を行っている。また同



御庭から正殿基壇まで木道が設置され、安全に歩けるようルートを確認

火災・コロナ禍を経て、 首里城公園再開

2026年の正殿再建に向けて 「見せる復興」が進行中

年10月31日には、有料区域に「首里城復興展示室」を開設。デジタルサイネージで正殿復元の工芸技術などを紹介し、獅子瓦の一部なども展示している。また、世誇殿では火災前の首里城の姿等を紹介する映像を大型画面で上映したり、タッチディスプレイで学習できるコンテンツを設置した。

屋根の一部が破損していた奉神門は2021年3月末で修繕が終了。瓦が葺き直され、漆も塗り直された美しい姿が蘇った。



1998年に復元された継世門



戦前の継世門(森政三コレクション)

御城物語

うぐしくものがたり Vol.21

かつて、首里の人々が「御城(うぐしく)」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関係するトリビアを語る歴史エッセイ。

継世門

首里城公園には現在13の門がありますが、今回は首里城外郭の南東に位置する継世門を紹介しましょう。

最初に門が造られたのは1546年(天文15年)で、門の両側に建てられた石碑に、当時猛威をふるっていた倭寇からの防備を強化するため門を設置したことが記されています。石垣アーチ門の上に、本瓦葺の檜が載せられた門で、首里城外郭の門である歓会門や久慶門と同じ構造になっています。

「継世」と名付けられたのは、国王が亡くなった際、次

の国王となる世子(王子)がこの門から入り、世誇殿で王位継承の儀式に臨んだことに由来し、「すえつぎ御門」とも呼ばれていました。

継世門は、西来院(達磨寺)から瑞泉酒造に抜ける道沿いにあり、首里城の東側に当たる赤田町方面(現在の那覇市首里赤田町)に建てられていることから「赤田御門」の呼び名もあります。日常には城内への日用品の搬入や城外へ物を持ち出す通用門として使われていました。

(比嘉明子)

手わざ

琉球王国時代から現代へ受け継がれてきた手わざ。がつくり出す伝統工芸の魅力にせまります。

vol. 5

「御玉貫の魅力」 うたますき

現在の私たちはごく身近に金工美術を目にしますが、琉球王国時代の金工美術は普段目に触れられるものではありませんでした。特別な儀礼の場などで権威の象徴として用いられるものだったからです。

材料としては、融点が低く加工が容易なことから錫が用いられることが多く、王国時代の金工美術の中心でした。その精髓のひとつが御玉貫です。

御玉貫とは、多彩なガラス玉の編み込みを錫瓶にかぶせたもので、琉球王国時代の公的な儀式などで酒器として使われました。精緻に編み込まれたガラス玉が見どころですが、隠れた主役は錫瓶です。細い首から豊かな胴へふくらむ優美な曲線はガラス玉の文様を際立たせ、裾が広がった高台は全体の姿に安定の美を与えます。



御玉貫 (16~18世紀 沖縄美ら島財団所蔵)



同・底部 中央に左三つ巴紋が刻印されている



過去の「新春の宴」で御玉貫(復元製作品)を使用している様子

この曲線美は一見何気ないですが、微妙な均衡の上に成立しています。それは使う側と作り手の合作ともいえます。使い手の厳しい審美眼があつて初めて作り手の審美眼・技術も鍛えられるからです。錫瓶の曲線美は壺屋焼の瓶子にも受け継がれ重要な見所となっています。

さらに錫瓶の魅力が垣間見られたのは儀式の場でした。元々はガラス玉編みの蓋もあつた錫瓶は、泡盛を盃に注ぐ際に初めの技術の粋を集めたごく薄い造りなので驚くほど軽い手取りです。錫瓶を傾けると高台の内側から微かに左三つ巴が見えます。どんなにまばゆかったことでしょう。

(鶴田大)



①仮設履屋内部の正殿遺構 ②復興展示室内の様子 ③ヒビの修復を終え養生中の大龍柱 ④メッセージで作られた首里城モザイクアート ⑤首里城祭での復興祈念ライブには、地元首里の伝統芸能や空手団体、県外からの出演も ⑥首里城祭での国王・王妃 ⑦漆喰はがしボランティアの様子 ⑧全国からの応援メッセージ ⑨夜間消防訓練で、屋外の消火栓から放水の様子 ⑩奉神門の瓦を葺く屋根瓦職人たち ⑪こども御開門 ⑫首里城オリジナルTシャツ、トートバッグ ⑬首里城オリジナル筆箋 ⑭富山幸浩係長 ⑮仲榮眞盛也係長 ⑯満名誠主任



地域と連携し愛される 首里城をめざして

2020年6月12日から首里城公園有料区域が再オープン。再開を待ちわびた地域住民でにぎわった。一方で例年にぎやかに開催する首里城祭や新春の宴も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために規模を縮小。10月31日から11月3日まで開催した首里城祭では奉神門から守礼門までの古式行列を実施した。2021年1月1日から3日まで開催した新春の宴では、御座楽や琉球舞踊など伝統芸能を披露し、来場者に新春の雰囲気を楽しんでいただいた。

一方で、ステイホームでも首里城の雰囲気を楽しんでもらえるよう、オンラインでの情報発信にも力を入れ、首里城公園解説員による紹介動画のYouTube配信を始めたほか、首里城祭、新春の宴では一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローと連携して、第39代ミス沖縄によるライブ配信を実施した。

首里城公園管理部事業課広報企画展示係の仲榮眞盛也係長は言う。「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底したうえで開催した首里城祭では、復興に思いを寄せてくださる方々による復興ライブを開催することができました。沖縄県主催の関連イベントとしては城壁を使ったプロジェクトマップが実施さ

れ、地域住民の皆さまから首里城の新しい魅力だとご好評をいただきました。また国王・王妃の新規募集はせず、令和元年度選出者に引き続きお願ひ、首里城祭、新春の宴でも国王・王妃の出御を行いました」

首里城復興を支援したいという声は多く、瓦の漆喰はがしボランティアに多数の沖縄県民が参加。県内外から首里城復興を願う寄せ書きが首里城公園管理センターに多数寄せられている。「皆さまからの声に励まされる一方で、防災に全力で取り組むことも職員の責務だと感じます。月に1度、火元の想定を変えての消防訓練を行います。特に10月26日は大規模な総合訓練を実施しました。夜間の情報伝達訓練や、門扉の開錠などを取り入れるほか、地震を想定した訓練も行っています」と、首里城公園管理部業務課利用サービス係の満名誠主任は語る。

また、首里城復興支援の記念になるものをと声に応え、Tシャツやバッグなどオリジナルグッズも開発した。事業部営業課首里城営業係の富山幸浩係長はこう話す。「首里城公園内の店舗でも販売していますが、離

れていても首里城復興を応援してください。求めただけのように展開しています」

春休み期間の3月20日から28日まで、地域と連携して「首里手作り市」を開催。那覇市立城西小学校の旗頭「響」が守礼門前、飲会門前、下之御庭で演舞を披露したほか、城西小学校・那覇市立城南小学校の児童による「こども御開門」など初の試みを実施した。満名主任は言う。

「首里手作り市は、企画会議から首里城周辺地域のまちづくり団体にご参加いただき、地域の人たちのご意見を取り入れて開催しました。企画段階から地域の方に入っていたというのは、首里城公園でも初めての試みです。自分たちだけでは

どうしても発想が固まってしまうがちですが、ミツバチ教室やこども御開門など思いもよらなかった企画が実現できて、本当に良かったと思います。特にこども御開門は地域の方々がいっもより多く見学されていたのが印象的でした。」

仲榮眞盛也係長はこう言う。「旅行者はもちろん地元にも愛される首里城を目指して、まだまだやれることがあるはず。今後も、国や県はもちろん、地域の皆さまや公立大学法人沖縄県立芸術大学などとも連携しながら、「見せる復興」「地域に愛される首里城」の実現に向けて、一歩ずつ取り組みたいと考えています」

(文：いのうえちず)



(※詳細は P.15 をご覧ください)

亜熱帯海洋性気候で、野生植物も温帯の本土とは異なる沖縄地方。琉球王国時代から中国の影響を受け、広く薬草や「体にいい」食材・調理法の知識が伝承されてきた。

佐竹元吉氏は学校法人昭和薬科大学の薬用植物資源研究室で研究員として、フィリピン、タイ、ミャンマー、中国などのアジア各国で薬用植物を研究してきた経験から、平成30年度より沖縄美ら島財団総合研究センターの顧問に就任。沖縄の薬用植物・未利用植物の研究を共に進めることが期待されている佐竹顧問に、今後の展望について話を聞いた。

「長年、世界の薬用植物を研究されてこられた立場からご覧になって、沖縄地方の植物のどのような点が面白いと思われるですか？」

佐竹「沖縄地方は東南アジアと気候も近いので、よく似た植物や共通する植物がたくさんあります。特に伝承医学、民間医学と言われるもの、各国と連携して、一つの規格を作るという動きですね。国別にある薬局方の、アジアASEAN版というべきでしょうか。沖縄地方はASEANとは少し違うかもしれませんが、生えている植物は似ていますので、各国と連携して薬局方のようなものを作っていくのが一番良いんじゃないかと思っています」

「亜熱帯でこそ育つ薬用植物も多いでしょうし、希少価値の高い薬用植物の栽培に成功したら、沖縄県の産業振興にも大いに貢献できますね。」

佐竹「シナモンの仲間、ニッケイもそうです。京都の八つ橋の原料として使われていたのは、もともと和歌山県や高知県で作っていたニッケイだそうですが、今は東南アジアから輸入しているそうです。沖縄地方でもシナモンの仲間が栽培されているそうですから、期待できますね。ニッケイは漢方の処方にはなくてはならないものですから」



ニッケイ

沖縄美ら島財団
総合研究センター
研究顧問
佐竹元吉 さたけ もとよし



中に面白いものがある。その一方で、東南アジアでは非常に重要な薬用植物とされている。沖縄地方ではあまり利用されていないものもあります。この違いも興味深いですね」

「薬用植物は国によって分類や扱いが異なるのですか？」

佐竹「世界各国に、その国が定める医薬品に関する品質規格書である。実際、沖縄県国頭村ではカラキハというシナモンの仲間を使ったお茶や飴が商品化されています。沖縄美ら島財団には、研究成果を沖縄の産業振興に還元したいという目標がありますから、これまで伝統的に健康に良いとされてきたものの機能性成分を科学的に分析することはその一環としてやりがいがありますね。」

佐竹「薬用植物の成分を研究して、有効成分を見つけ出すという手法は大変難易度が高い。成分のパターンを科学的に調べて、そのパターンに属するものを探すと、このパターン分析にすると特徴が明確につかめるので、むしろそちらをおすすめします。アメリカではサプリメントの中で、植物性のもはボタニクスという言葉でまとめて、薬用でも食用でも植物性は全部ボタニクスなんだという考え方があります。薬効成分で明確に分類する必要はないんじゃないかという気がします」

「民間薬、伝承薬というところでは、沖縄地方では風邪をひいたときに「チムシンジ」という豚のレバーと島ニンジンなどを煎じたものを飲みます。そういうものも含めてアプローチできると思いますね。」

佐竹「調理の先生方と連携されると

「薬局方」があります。日本の薬用植物や生薬は『日本薬局方』に定義されています。私はミャンマーやフィリピンで、そういう規格そのものをやる仕事をしてきました。今後、沖縄で民間医療に使われる植物を科学的に裏付ける規格を作ってもいいんじゃないかと思えますよ」

「どういった植物が薬用植物として有望ですか？」

佐竹「たくさんありますが、代表的なものにゲットウやウコンなどのショウガ科植物は有用と思われると思います。他にはヒハツモドキ。東南アジアでは大変広く使われているヒハツという植物は、インドの伝承医学アーユルヴェーダでも使われます。沖縄地方にあるヒハツモドキの成分を調べてみると面白いのではないのでしょうか。また、漢方薬ではインゲンコウという重要な薬の元になるカワラヨモギ、その仲間が沖縄地方では食用として食べられていますね」

「葉の細いハママーチ(リュウキウヨモギ)はお茶にしますね。広く親しまれている食材が重要な薬用植物だったというのは面白いですね。」

佐竹「他にもいろいろあると思いますよ。ボタンボウフウ(長命草)に似たハマボウフウは、風邪の薬として良いと思いますよ。例えば山菜のワラビはそのままで毒性があります。が、伝統的な手法でアク抜きをすると毒性成分が消えます。昔ながらの調理法には意味があることが多いので、その辺はお知恵を借りながら連携して進められるといいですね」

「他に沖縄地方で何か気になる植物はありますか？」

佐竹「シダ科の植物はどうでしょう？例えば東南アジアではリュウビンタイの仲間の根茎を薬として使いますが、沖縄地方ではシダ科の植物はどのように活用されているかも知りたいですね。ハーブ類も面白いです。それから、どこにもある雑草と思われるがちなツボクサも、東南アジアでは滋養強壮に良いとして葉のしぼり汁を飲んだりしています。」



ツボクサ

日本薬局方に収載されています。この植物の分布は中国の海南島、沖縄から北海道を経てカナダまで見られます。その場所によって成分も少しずつ違うので、沖縄地方のハマボウフウがどんな位置づけになるか調べてみるのも面白いでしょう。同じ日本国内でも、太平洋側と日本海側で少し成分が違うということも議論されていますから。それから40年ほど前に、西表島の海岸にオオニンジンボクがあると聞いて、わざわざ見に行ったことがあります。大きな木になるんですが、フィリピンでは非常に重要な植物で、痛み止めや利尿に使います。ヨーロッパでも重要な薬用植物とされているんですよ」

「こういった研究を沖縄美ら島財団と進めるにあたって、どんな方向性をお考えですか？」

佐竹「沖縄地方には薬用植物に関する伝承がいろいろありますが、それぞれ裏付けがあるようでないのが現状です。沖縄県内の研究機関として、沖縄美ら島財団が科学的な裏付けをきちっと行えば、価値のあるものになると思います。もう一つは沖縄地方だけでなく、フィリピンやミャンマー、タイなどのASEAN

佐竹「沖縄地方は歴史的な経緯から中国の漢方薬に注目しがちですが、インドのアーユルヴェーダなど、他の地域の伝承医学に目を向けるのも良いと思います」

「そういった視点で見直せば、研究テーマはたくさんありそうです。今日はありがとうございました。」

(文・いのうえ ちず)



ハマボウフウ



リュウビンタイの仲間

海洋博公園3施設において 音声ガイドアプリを 導入しました！

海洋博公園熱帯ドリームセンター、海洋文化館、おきなわ郷土村では、2021年3月より音声ガイドアプリを導入しました。これまで「見る」ことが中心だった施設や展示物の新たな魅力として、音声に沿って「体験する」コンテンツとなっています。

熱帯ドリームセンターでは植物から採取した電磁波を用いたオリジナルの音楽を聴きながら、カカオやパオパオ、エアプランツなどの進化の過程や特徴を「植物の知恵」として学びます。

海洋文化館とおきなわ郷土村では、「島人ぬ宝探し」をテーマに、人々が生活の中で大事にしてきたものを、地図を頼りに展示から探し出す体験をしていただけです。宝探しを楽しみながら、展示物の背景にある歴史や人々の物語について学ぶことができます。

ご来館の際は、ぜひご利用ください。



熱帯ドリームセンター



おきなわ郷土村



音声ガイドアプリのダウンロードはこちらから

「本部町産あぐ〜」を使用した メニューの開発に取り組んでいます！

沖縄美ら島財団では、本部町と締結した「もとぶ地域づくり包括連携協定」に基づき、地域食材を使用したメニューの開発・提供を行っています。沖縄美ら海水族館4階レストランにて2020年9月より、「本部町産あぐ〜」を使用した「あぐ〜丼」、2021年3月より「あぐ〜カツカレー」をそれぞれ販売開始しました。

沖縄固有種の貴重な豚「アグー」は、市販されている一般的な豚肉に比べ、甘みと旨味が優れた品種です。「本部町産あぐ〜」は、本部町で生まれ育ったアグーで本部町のブランド豚として確立されています。

甘くてジューシーな脂の旨味と肉質の柔らかさを引き立てるため、「あぐ〜丼」はシンプルに塩で味付けしています。また、本部町産シークワサーを搾るときつぱりとした味わいも楽しむことができます。

「あぐ〜カツカレー」は、とんかつに使用する本部町産あぐ〜をスティック状にカットし、粗目のパン粉を使用することでサクサクした食感になるよう工夫しました。カレーは、日本人に馴染みある欧風ルーをベースに、複数の香辛料や調味料、フルーツ等をブレンドし、辛さを抑えたまろやかな口当たり仕上がりになっています。

沖縄美ら海水族館にお越しの際は、ぜひご賞味ください。今後も地域と連携し、地域食材の魅力を活かした商品開発を推進していきます。



あぐ〜カツカレー
販売価格：
1,400円(消費税込)

販売場所：レストランイノ（沖縄美ら海水族館4階）

あぐ〜丼
販売価格：
単品：900円(消費税込)
セット：1,200円(消費税込)

未来へ残そう沖縄の心 首里城基金

沖縄美ら島財団では、国内外に散逸した首里城関係の文化遺産を収集し、保存修復、模造復元製作し、首里城等で一般公開していくため、沖縄県、県内市町村、各種団体、また多くの方からの協力を得て、1992年より首里城基金を設置し、これまで文化遺産収集事業を続けてまいりました。

2019年10月31日、首里城火災により、貴重な美術工芸品が被害にあいました。首里城再建に向けた動きが加速するなか、偉大な先人たちが残してくれた貴重な美術工芸品等の遺産を収集・復元・保存し、首里城で展示できるように、首里城基金の造成に皆さまの絶大なご支援ご協力賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。



書跡の修復作業



漆器の復元作業

寄付金額 (2019年10月31日以降)
1,256件
258,355,887円 (2021年4月27日現在)

オンラインショップ 「沖縄美ら海水族館公式オンライン」を オープンしました！

2020年7月より、沖縄美ら海水族館のオリジナル商品等を取り扱うオンラインショップ「沖縄美ら海水族館 公式オンライン」をオープンしました。施設への来園、来館を楽しむにしてください。皆さまに、商品を通して少しでも旅行気分を味わい楽しんでいただきたいの思いから、オンラインショップの開設に至りました。

オリジナル商品など、ほかでは手に入らない商品をはじめ、沖縄美ら海水族館が位置するやんばる地域（沖縄本島北部地域）や首里城公園の商品もお買い求めいただけます。

ふわふわした手触りのぬいぐるみ「フラッフィージンベエ」やマスク、首里城正殿をモチーフにしたペーパークラフトブック「首里城正殿美術模型」などがおすすめです。また、季節イベントに合わせた期間限定商品やオンラインショップ限定セットの販売など、様々なキャンペーンも企画中です。

2021年3月には、Yahoo・ペイペイモールにも「沖縄美ら海水族館公式ショップ」をオープンしました。今後も取扱商品を増やしながら、より多くのお客さまへ商品をお届けしていきます。



フラッフィー
ジンベエ



首里城正殿
美術模型

■沖縄美ら海水族館
公式オンライン
<https://umichurara.shop>



■Yahoo・ペイペイモール
沖縄美ら海水族館公式ショップ
<https://paypaymall.yahoo.co.jp/store/churaumiokinawa/top/>



沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)の指定管理者

2021年3月、沖縄県議会の議決を経て、「沖縄県立博物館・美術館」の指定管理者に選定されました。2016年4月からの5か年間に引き続き、2021年4月から2026年3月まで、同館の施設管理やミュージアムショップなどの運営等を行います。今後さらに、沖縄美ら海水族館や首里城公園など他施設との連携や、当財団総合研究センターとの連携による企画展などを強化し、展開していきます。

当財団が培ってきた調査研究や普及活動、施設管理に関する豊富な知見やノウハウを活用し、同館における沖縄の自然・歴史・文化の発信や継承に貢献します。

沖縄美ら島財団は、次世代の沖縄を担う若者の文化・芸術活動を奨励し、将来沖縄を背景に広く世界で活躍してほしいという願いを込め、沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科卒業・修了作品展において、「沖縄美ら島財団理事長賞」の授与を、2016年より実施しています。

沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科 第31回、第32回卒業・修了作品展にて 「沖縄美ら島財団理事長賞」を授与

2020年2月12日〜16日に開催された第31回作品展では大学院 漆工研究室2年の島袋香子さんの作品「青蓮」が、2021年2月10日〜14日に開催された第32回作品展では美術工芸学部工芸専攻(染分野)4年の浦川愛菜さんの作品「輝きを纏ふ」が受賞されました。

■第31回作品展

<p>北中城村長賞 作品名「境界と記憶」(彫刻作品) 福田 直樹</p>	<p>デパートリウボウ賞 作品名「Clay Language」 (陶芸作品) 鈴木 まこと</p>	<p>沖縄美ら島財団理事長賞 作品名「青蓮」(漆芸作品) 島袋 香子</p>
<p>北中城村文化協会賞 作品名「寂として祈る」 (染織作品) 杉本 智奈</p>	<p>沖縄県立博物館・美術館長賞 論文名「フセイン・チャランの思索的ファッションデザイン-モビリティの時代における身体、空間そして文化的アイデンティティの問題-」 工藤 源也</p>	

■第32回作品展

<p>北中城村文化協会賞 作品名「なやみのたね」 (デザイン作品) 玉元 楓</p>	<p>デパートリウボウ賞 作品名 「朱漆花鳥堆錦沈金八角 東道盆『華信風に舞う』」 (漆芸作品) 上江洲 安龍</p>	<p>沖縄美ら島財団理事長賞 作品名「輝きを纏ふ」(染作品) 浦川 愛菜</p>
<p>北中城村長賞 作品名 「優游瀟湘」 (漆芸作品) 大城 史織</p>	<p>沖縄県立博物館・美術館長賞 題名「大今良時と山田尚子 二つの『盤の形』論— マンガとアニメの表現ジャンルに従って—」(論文) 竹嶋 良騎</p>	

おもろさうしの

植物

其の十九

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登録する植物の紹介コーナー。
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

「たけ」 (リュウキュウチク)

一 与那嶺の大親

たけつほに 造ておちへ

按司襲いぎや

島討ちする 矢柄

「第一九巻一二九三」

与那嶺の大親が

竹を栽培する囲いを造って(竹を育てて)

按司様が

島討ちをするための矢柄の見事さよ

一口メモ

リュウキュウチクは琉球列島固有の竹で、大東諸島以外の沖縄各島に自生する。
稈は高さ1〜3メートル、径1〜2センチメートル、葉は立性で長さ18〜25センチメートル、幅4〜5ミリメートルほどになり、生育地によって稈の高さや葉の広狭に変化がみられる。
非石灰岩地に植えると葉が糸のように細く幹も黄色を帯びるため、観賞用として利用される。かつての沖縄ではリュウキュウチクは生活と深く結びついており、稈は建築補助材、垣根材、編み物、農業資材として用いられたほか、枝葉はやねふきに用いると70〜80年長持ちするといわれ重宝がられた。

「解説」

与那嶺の大親が、竹牆を造って囲いをしておいて、按司様が島討ちをするための矢柄の見事さよ。

「たけつほに」は、竹牆。

「つほに」は「つにほ・チニブ」の誤写か。家の正面にこしらえる目かくしのこと。

「与那嶺の大親」は、旧佐敷町の与那嶺の大親。第一尚氏の国王尚巴志の父、尚思紹のこと。「なわしろの大や」(苗代の大親)ともいう。



おもろ名 和名 科名
たけ リュウキュウチク イネ科
ヤンバルダキヤマダキ

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立
名護青少年の家



なご
アグリパーク



沖縄県立博物館・
美術館(おきみゆー)



2021年5月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川1888
TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

季刊誌 南ぬ風

春号 vol.54
2021.4〜6

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷
〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5



この印刷物の情報は個人情報保護マネジメントシステム(プライバシーマーク)を適用しています。
株式会社 東洋企画印刷 プライバシーマーク <24000430>

ISSN 2189-4140